

### ◆「都市の物語」を紡ぐあかりの効果

長町 志穂

建築における照明の役割は、戦後から今日にかけて「夜間にもものが見えるようにし、安全安心を確保する」という基本機能に加え「固有の美的価値を創りアイデンティティを表現する」というものに大きく変化してきた。特に都市部の建築においてはそのライフスタイルの24時間化に伴い「夜景」を意識したものが増えている。間接照明を使った演出や建物そのものが内側から輝くものなど多様な表情を持つものが増え、照明による「夜の表情づくり」はもはや不可欠なものといえるだろう。また、都市照明においても、LEDの急速な進歩による光源の長寿命化と省エネルギー化によって様々な演出が公共照明としても可能となり、世界の各地で「夜間景観の整備」「夜景整備による都市魅力の強化」が図られている。古い橋や歴史を物語る建築物のライトアップは、そういった計画の中で重要な役割を担っている。

都市の歴史を培ってきた建築や土木構造物の多くは、その成立した時代背景から当時から照明演出がされているものはほぼなく、昼にはその美しい変わらぬ姿を見ることができるが、夜には闇の中に紛れている。現代の光によってそれらがフォーカスされた時、日中以上にその佇まいの美しさやディテールの魅力を誰もが直感的に感じとることができるので、都市の夜景にとって歴史的建築の照明演出は無くしてはならない存在だと言える。

「生きた建築ミュージアム」は、エリアの名建築を「生きた資産」として選定し再評価する事業である。この事業では日中のみならず「夜間景観」にも着目しており、それらの美しく個性的な外観や時代を表すファサードがライトアップによって際立つことや、使われているからこそ見ることができる窓からの漏れ光の美しさなどを「大阪の物語を紡ぐ夜景ポイント」として評価しようとしている。様式美のある石造りの外観や関西モダニズムを物語るコンクリートの肌合いなど、光によって際立つ建物が集積する大阪ならではの試みである。

「ミナミのネオン」に代表されるとおり一辺倒な「大阪の夜景」イメージを払拭し、エリアの建築資産そのものが「夜景資産」となることで、本来の大阪の歴史や物語、文化の深さや厚みを多くの人に伝えることができるだろう。また、上質な建築資産を未来に残すため、その魅力を広く伝える一助をライトアップなどの照明演出が担うであろうし、それを大切に考える「生きた建築ミュージアム」事業にエールを送りたい。

美しくライトアップされた建築、路地のあかり、カフェの漏れ光など、行きたくなる街には必ず美しいあかりがある。「大阪光のまちづくり2020構想」によって、美しく訪ねたい光のあるまちを目指す大阪にとって「生きた建築のあかり」は無くしてはならない希望の光である。

## ◆「生きた建築」に寄り添う「生きた文字」

後藤 哲也

モリサワという会社をご存知でしょうか。文字づくりを手掛けるフォントメーカーとして国内市場シェア第一位を誇る会社です。名前は聞いたことがなくても、毎日どこかできっとモリサワが開発した文字を目にしているはず。紙に印刷されたものだけでなく、液晶モニターや建築物のサインなど、あらゆる場所にモリサワの文字は溢れています。

そのモリサワが本社を置くのは大阪。1948年の創業以来、大阪を拠点に文字文化を牽引してきたモリサワが1955年に初めて開発した自社書体が「中ゴシック BB1」。

写植<sup>\*1</sup>用に設計された中ゴシック BB1 は、DTP<sup>\*2</sup>時代に合わせた調整などを経て、オリジナルのデザインを継承しながら、多くのファンを持つ「中ゴシック BBB」へと発展します。



生きた建築ミュージアムのタイトルには、モリサワの特別な協力を得て、このゴシック BB1 を使用しています。高度成長期のはじまりに大阪に生まれ、今もなお、しっかりと時代

と寄り添いながら愛される中ゴシックの系譜は、「生きた建築」の考えに通じる「生きた文字」とも言える、大阪が持つ豊かな資産のひとつの象徴だと考えます。

日本のグラフィックデザインの発展には、早川良雄さんや田中一光さんなど、多くの大阪・関西出身のデザイナーの偉大な貢献がありました。そして、現在でも東京とは少し異なるグラフィックデザインの流れが大阪には存在しています。これには大阪に拠点を置き続け、文字文化、そしてグラフィックデザイン業界に貢献するモリサワの存在が大きいと言えるでしょう。

生きた建築ミュージアムに選定された建築物には、建物そのものだけでなく、看板や案内図など時代を映すデザインも残されています。建築家とともに建築をつくりあげた大阪のデザイナーたちにも思いを馳せながらそれらを見れば、生きた建築の楽しみ方も幅が広がるでしょう。書体やデザインをレンズに、生きた建築の歴史を覗いてみてはいかがでしょうか。

---

※1 写植：写真植字。文字を印画紙に印字して版下を作成するコンピューター導入以前に用いられた方法  
※2 DTP：Desk Top Publishing。編集，デザイン，レイアウトなどの作業をコンピューターで行うこと。